第 92 期を振り返って

2014 年度（第 92 期）会長　久保 司郎

1. 第 92 期の活動を通して

第 92 期の大きな課題の一つに財政問題があった．本会は，第 90 期までの数期にわたり，大幅な赤字を計上した．第 91 期には，経費削減をはかり，僅かながら黒字を計上することができた．小生が会長を務めた第 92 期には，消費税率アップの影響等のマイナス要因があったが，結果として大幅な黒字を計上することができた．これは，財務の見える化を推進いただいた会計理事はじめ理事会の皆さま，支部，部門，部会，センターはじめ，関係の会員のご協力によるものであり，感謝にたえない．この黒字基調は，その後の期でも維持されており，皆様の絶え間なるご尽力に深謝する次第である．

第 92 期の重点課題に情報交流と情報発信があった．本会が有する，学術誌，講演論文集をはじめ，多くの知的情報の蓄積をデータベース化・アーカイブ化し，各会員がいつでも，どこでも，情報を検索し，取得することができるようになれば，その効果は大きいと考えた．まずは，会誌 8 月号の年鑑の電子情報を会員に開放した．この年鑑には，選び抜かれた執筆者による，選び抜かれた最新情報が掲載されているので，引き続き活用いただければ幸いである．機械工学年鑑も DVD 化し，容易に検索ができるようになり，多くの方々に購入いただいた．学術誌としては，機械工学の全分野をカバーする新学術誌（Bulletin of the JSME）の名のもと，Mechanical Engineering Reviews，Mechanical Engineering Journal および日本機械学会論文集を創刊した．認知度を向上させ，インパクト・ファクターを取り戻す方策が近々結実するよう祈念する次第である．

「機械工学」の社会的認知度の向上に関し，「機械の日」と「機械遺産」が報道等でも大きく取り上げられた．また，いわゆる定年世代のシニアの会員を対象にしたシニア会は，各支部で発足し，あるいは準備が進んだ．活動を支えていただいている多くの会員の方々に，感謝申し上げたい．

2. 第 93 期以降に向けて

第 92 期では喫緊の課題を中心に取り組んだ．このため長期的な視点から言えば取り組みに不十分なところが多々あった．そこで，小豆畑 茂 第 92 期筆頭副会長（当時）（第 93 期会長）が主宰される政策・財務審議会に，学会の長期的かつ将来的問題に関する検討をお願いした．この答申の中には，重要な視点が多々あり，これからの活動でも大いに活用していただけるものと期待している．

3. 理事会運営に関して

部門長，支部長，広報理事，企画担当副会長，イノベーションセンター長等を務めた経験から，本会の活動はそれなりに良く知っているつもりだったが，本会の活動全体はさらに大きなものであった．このような活動を統括する理事会は，形式的になりがちである．このため，議論を喚起するように心がけ，また仕掛けた．第 91 期で分野別の理事会で問題点を洗い出し，目標を絞り，第 92 期では目標に対する進捗状況をモニ

© 2017 The Japan Society of Mechanical Engineers

タすることとした．久しぶりの関西出身の会長として意識したことは，理事会での理事の発言をしやすくすることであった．まずは，場を和やかにし，微笑みを入れ，議論しやすくすることであったが，うまくいったかはわからない．また，教育機関所属の人と，企業の人が隔てなく議論できるよう，理事会では，「先生」の呼称を禁止した．その結果，大室事務局長（当時）が小生の名を「久保・・」と言いよどんだのに，ニヤリとしたものである．ちなみに次の機会には，「久保会長」とさらりとかわされてしまった．

最後にあらためて，本会の活動を支えていただいている方々に，深甚なる謝意と敬意を表したい．

© 2017 The Japan Society of Mechanical Engineers